

トヨタ三重宮川山林 「森に行く日」

2019年11月30日、秋の終わりの1日…森の中を歩いたり、森の素材を使ったワークショップを開催。‘植えるー育てるー伐るー使う’という森の循環を学ぶプログラムを行いました。



人工林で林業を学ぶ

日本は森林の国。国土の約7割が森林に覆われており、そのうち約4割はスギやヒノキの人工林です。人工林は人の暮らしの中で使う木材の供給のために、人によって植えられた森林であり、植えた後も継続的に、手入れが必要です。

しかし、現在は外国産材の利用が増え、国産材の利用は低迷しており、手入れが遅れている森林がたくさん見られます。

トヨタ三重宮川山林では人工林の育成や森に関する事が学べる遊歩道を設置しています。

この日は、地元で林業に携わっている技術者の方と一緒に遊歩道を歩きながら、林業の話や森の活用についてお話を聞きました。



木を切ることは環境破壊と思われがちですが、木を間引きして（間伐）、森の中に光を入れることで、木が成長するとともに、下草が生えた美しい森になります。

良い森を見分けるポイントを教えていただき、何気なく見ていた森林も改めてみていくと面白い発見がありそうです。

工房「森に行く日」

午後はバナーナイフづくりと森のアロマづくりの2つのワークショップを開催。

開催した場所は、フォレストチャレンジの吉川さんの工房。

東京で制作拠点に加え、ここ大台町でも制作拠点をつくりたいということで、地元の方にご協力いただき、空き工房をお借りすることができました。

この工房の名前が「森に行く日」。





森の恵みのワークショップ

「森のバターナイフづくり」では、フォレストチャレンジの吉川さんの指導のもと、小刀や南京カンナを用いて自分の手にしっくりくるオリジナルのナイフを作りました。

大人も子供も約3時間、無心になって削り、磨き、手に持ってみて、また削り、、、の繰り返しの没頭。できあがったオリジナルのバターナイフを見て、満足顔の参加者たち。

講師の吉川さんは、無垢の木に触れ、刃物を使って自分で作することは、自由な自己表現の場であり、森と向き合う場であると考えています。



「日々の暮らしの森のアロマづくり」では講師に山野辺喜子さんをお迎えしました。山野辺さんは日々の暮らしに香りを添え、ここからからだのセルフケアを提案しています。

宮川山林で採取した新鮮な枝葉を使って芳香蒸留水を作りました。

また、今の自分に合った香りを見つけてアロマバームを作り、バームを使った自分でできマッサージの方法を学びました。



参加者からは、「人工的なものに慣れてしまっていたが、自然由来の香りの良さを知ることができた」、「FSC森林認証や林業の事を学び、自分でも何かやってみたくなった」などの感想をいただきました。

森と人とが遠く離れてしまった今の時代に、あなたも木のぬくもりや自然の香りを生活の中に取り入れて、森を近くに感じてみませんか？

